

資料1 職員の働き方改革について

(2) 副市長の発言について

「カスハラを受けた」職員239人

舞鶴市は、239人の市職員が過去にカスハラ（ハラスメント）を受けたと回答したアンケート結果を明らかにした。このうち10人は市議からも受けたと回答。これをうけ、市議会は議会の責務としてカスハラの防止に取り組むことを検討している。

市によると、アンケートは、市職員の働き方改革の一環で、病院、消防職員を除く約1千人の職員に10月に実施。286人から回答があり、このうち約8割にあたる239人がカスハラを受けた経験があると回答した。

内容は、窓口、電話などでの「長時間の拘束」（207件）が最も多く、「繰り返しクレーム」（173件）、「名誉毀損、侮辱、暴言」（151件）、

舞鶴市 回答の8割「市議からも」10人

「正当な理由のない過度な要求」（109件）と続いた。

心身への影響としては、最多が「怒りや不満、不安を感じた」（199人）。次いで「仕事に対する意欲が減退した」（141人）、「眠れなくなった」（38人）。「仕事を休んだ」「通院や服薬をした」がそれぞれ6人、「入院した」との回答も1人あった。

相手は市民（232人）、事業者（24人）、関係団体（18人）の順で、議員（10人）は4番目に多かった。いずれも複数回答。

23日の市議会の議会運営委員会では、議員からのカスハラが取り上げられた。委員からアンケートの信頼性を問われ、市側は「実体験が数値化されたと考えている」との認識を示した。

また、市側は今回のアンケート以外で、「議員が公用車の不具合で公務に参加できなかったことがあり、担当職員が後日、執拗な叱責を受けた」「議員から合理的な理由がなく、公の場で特定の職員の退職を促すような発言があった」など市側が把握する事例を明らかにした。

委員側は「ハラスメントと感じた職員がいることは真摯に受け止める」とし、議員研修などの防止策も検討するとい

う。市はアンケートと同時期の10月に庁内に検討会議を設置。来年の早い時期にカスハラの対応策を公表する。鴨田秋津市長は

条例化も視野に「すべて（の相手）を対象に市が率先してカスハラ対策に取り組むことで、今後広く市内の事業者に広げたい」と述べた。

職員の働き方改革について

(2) 副市長の発言について

資料2